

平塚ロータリークラブ 会長報告（令和2年5月14日）

平塚ロータリークラブ
会長 清水 裕

皆さま、こんにちは。

5月4日に緊急事態宣言が延長され、14日の専門家会議でも神奈川県は引き続き特定警戒都道府県に指定されるようです。このことを受けて、5月以降の平塚RC例会や事業を検討するための理事役員会（5月11日開催予定）を延期することといたしました。また、このことに伴い5月中の例会を休会させて頂きます。今回も、理事役員の方々へのお知らせが遅くなってしまったこととお詫び申し上げます。今後の検討は6月1日の理事役員会にて決定をする予定ですが、国、県において自粛緩和等の方向が出された場合、少々前倒しの開催も検討いたします。

5月12日に地区AG会議がありました。各クラブの会員の退会防止策の検討がされたようです。第8グループの各クラブは、5月中の休会が決定しました。

なお6月の例会予定は、以下の通りです。

- 6月 4日 クラブ協議会・情報集会報告
- 6月11日 会長卓話
- 6月18日 新会員歓迎夜間例会
- 6月25日 休会

（忙中閑あり）

今回のコロナ禍は、社会の様々な分野に大きな影響を与えています。そして感染が収まった後も、今まで通りの社会生活とはいかないことが予想されています。私に関わっている教育の現場でも、休校等の影響がこの先大きな問題となってくるでしょう。特に、大学短大専門学校等の高等教育機関では、国の30万人計画のもと右肩上がりであった留学生の今後の状況が大変危惧されています。特に、神奈川県では約一万四千人の留学生がおり、その動向は県内教育機関にとって大きな影響を与えます。

この留学生は、卒業後大半が国内に就職をします。そのため技能実習生とともに、わが国の社会の担い手として欠かすことのできない人材となっています。その彼らが、学校に入る前に学ぶ学校があります。いわゆる、日本語学校と言われるもので、認可要件が通常の学校と少々異なり、設置主体も学校法人というより会社組織の参入が多い学校です。

そこで本日は、日本語学校のお話をさせて頂きます。

日本語学校では、基本的に日本語で授業をしますので、一般の方は「私にも教えられる」と思いがちです。しかし日本語学校の教師によれば、日本語教育はなかなか難しいのだそうです。何が難しいのか、例えば「私は日本人です」と「私が日本人です」の違いや、「鍋は食べられない」のになぜ「鍋を食べる」と言ってしまうのか、説明できるのでしょうか。

日本人が自然にできる助詞や表現の使い分けを外国人に理解してもらい、使いこなせるように教えるのは日本語の研究者でも難しいと言われていました。また、日本語の語彙の多さも、覚え難い要因と言われていました。英語の「I」は、日本語では「私」「僕」「俺」「あたし」「あたい」「自分」など性別や年齢や場面で使い分けられます。ちなみに、英語の日常会話で使われる語彙は約一万語なのに対して、日本語では三万～五万語と言われていました。日本語学校の教師は、このように使い慣れた日本語のエキスパートであるとともに、生徒の国と日本の違いを理解して、生徒の背景にある異文化に配慮することも必要なのです。グローバル化の担い手には、このような人たちもいるということですね。

グローバル化は、コロナ禍では裏目に出てしまいましたが、この動きは止められません。

END コロナではなく、WITHコロナとしての生活が必要になるようです。

会員の皆様には、くれぐれも健康にご留意ください。